



# 「途上国と日本の学びあい」によるまちづくり ～SDGsの理念をベースに～

野毛坂グローバル 代表 奥井 利幸

## 「誰一人取り残さない」まちづくり

野毛坂グローバルは2016年に設立された「誰一人取り残さない」を目指すまちづくりNGO団体です。さまざまな年代、国籍、価値観を持つ人が活動しています。

「誰一人取り残さない」とは、SDGs (Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標) の基本理念です。野毛坂グローバルでは、「取り残されがちな人」として特に障害者や高齢者を想定し、すべての活動で意識することで結果的にすべての人、例えば孤立しがちな子育て中の人、引きこもりの若者、外国人なども含めて取り残さないことにつながると考えています。



2018年9月：グローバルフェスタ（東京・お台場）  
若者からシニア、外国籍など多様な約30名のスタッフが協力

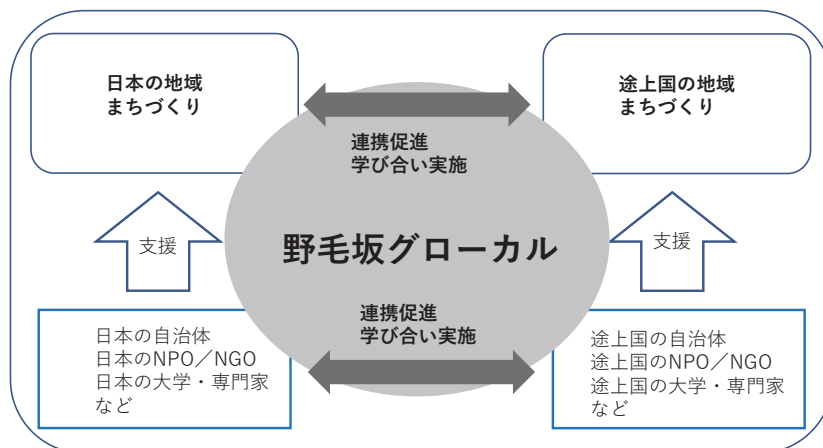
## 途上国と日本の地域の学びあい

いま日本で住民発意・住民主導のまちづくが注目されています。地域ニーズに合致し、コスト効果が高く、持続可能であり、自由な発想に基づく多彩なアイデアが期待できるからです。ところがアイデアを住民が実際に実施する際には、多くの法律や規則に沿う手続きが壁になることがあります。制度に熟知した専門家が主導しがちとなり、結果として住民の自由な発想が阻害されることもありえます。

一方で、途上国に目を向けてみると、専門家による技術的支援に限られる代わりに、各種の規制が少なく結果的に自由な発想でのまちづくり活動が行われていることが多いように思えます。

日本では、超高齢社会を迎え社会経済構造が急速に変化するなか、既存の常識を打ち破る「新たな発想」が地域コミュニティで今後より必要となります。

途上国の「自由な発想」からの学びは日本のまちづくりの新たな発想に刺激になることが期待できます。また異文化の相互理解は、地域のアイデンティティを明確にし、さらに魅力ある地域づくりの手助けとなります。



野毛坂グローバルの活動イメージ：途上国と日本の地域の学びあいを通じて、まちづくりを行っています

※野毛坂グローバルが実施してきた、途上国と日本の自治体やNGO、住民組織が直接意見交換する「地域の学びあい活動」の様子の一例を次に写真で紹介します。



ミャンマーのまちづくりNGO セダナと日本の小学校や町内会とのまちづくり学びあい活動（横浜市立一本松小学校）



町内会役員、老人クラブ役員らからのタイの自治体職員への地域活動説明（横浜市社会福祉協議会）



ASEAN 各国の学生と横浜の学生とのワークショップ（横浜コミュニティデザイン・ラボ）



タイの自治体首長らが町役場を訪問しての高齢者福祉研修実施（神奈川県真鶴町琴ヶ浜研修センター）

## タイでの高齢者ケア プロジェクト

アジア各国でも急速な高齢化がすすみ、その対応が社会課題となっています。日本では、社会全体で高齢者を支える「福祉の社会化」を目指して介護保険制度などが整備されてきました。しかし最近では地域コミュニティや家族の重要性も再認識されています。

一方でタイなど途上国では地域コミュニティや家族による介護のみしかなく、公的な支援は限られています。「社会全体で高齢者を支える仕組みづくり」はまだまだ始まったばかりです。

途上国と日本、経緯は異なりますが、「社会全体としての支援」と「地域コミュニティによる支援」とのベストマッチングを模索しているとの意味で同じステージに立っているともいえます。

その状況のなか、タイのバンコク郊外のブントー市では高齢者センターの設立を計画中です。タイだけでなく途上国の高齢者ケアの拠点のモデルとなりうる極めて意義が大きな意欲的な取り組みです。

野毛坂グローバルでは、タイのタマサート大学の協力を得て、日本の自治体や福祉事業者と共同でこの設立支援を行います。自治体、大学、NGO（野毛坂グローバル）、事業者が国をまたがるパートナーシップで取り組むことはSDGsの枠組みにも沿ったものです。

「途上国と日本が学び合える」このような国内外の自治体やさまざまな機関の連携事業に今後とも積極的に取り組んでいきたいと考えています。